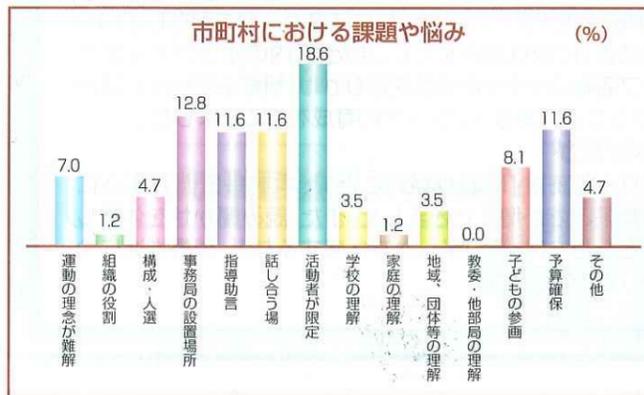
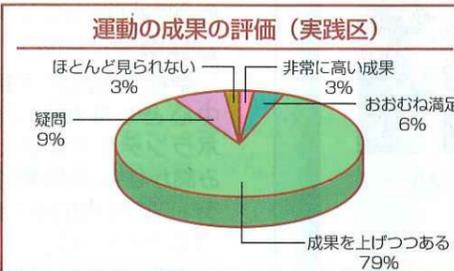
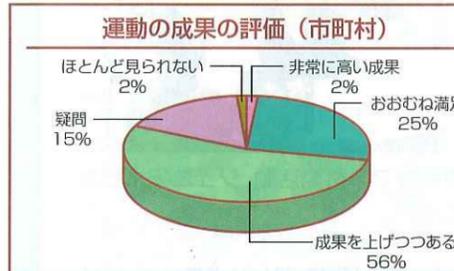
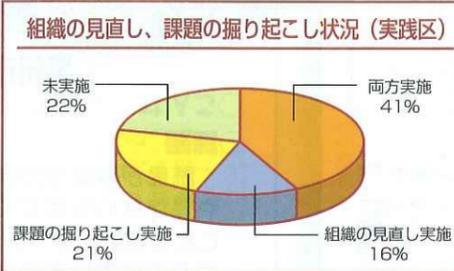
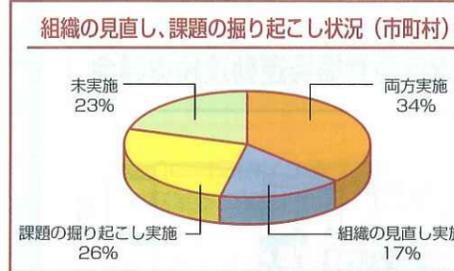


第1ステージ「再構築の3年～見直し～」の成果と課題



そこで…

第2ステージ「実践の3年～やってみる～」の方向性

- すべての市町村にモデルプログラムに取り組んでもらえるよう働きかけを行います!

地域の教育課題を解決するためのプログラムを作成しました。地域の抱える課題は何かを掘り起こし、その課題の解決のためにプログラムを活用してみましょう。

【プログラム内容】… 34プログラム

- 「学力向上」……… 10プログラム
- 「健全育成」……… 8プログラム
- 「健康安全」……… 10プログラム
- 「組織」……… 6プログラム

※モデルプログラム及び教育振興運動がよくわかる手引資料「教振」ってなに? (総論編)は、岩手県立生涯学習センターHPから、ダウンロードできます。

- 市町村や実践区の運動が次のステップへつながるような評価の仕方をお知らせします!

教育振興運動がよくわかる手引資料「教振」ってなに? (総論編)に活動の評価方法が掲載されています。1年間の取り組みの成果と課題を明らかにし、次年度以降の計画を立案する際に活用してみましょう。

- 市町村の悩みや課題解決にむけての支援を行います!

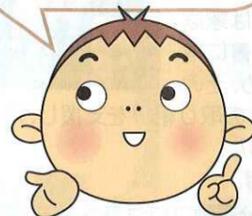
運動推進上の悩みや課題解決を図るためにアドバイザー(チーム教振)を派遣します。

「再構築の3年」の最終年度に市町村・実践区を対象に、この3年間の取り組みについてアンケートをとりました。

大きな柱である地域の教育課題の掘り起こしや組織の見直しを行った市町村・実践区ともに約7割を超えています。

成果が上がったと回答している市町村・実践区ともに約8割を超えています。

しかしながら、今後取り組むべき課題として、活動する人が限られていたり、子どもたちの主体的な参画が求められたりしていることがあげられています。



みんなで教振! 10か年プロジェクト



教育振興運動啓発資料2008.3
編集・発行/岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1 TEL.019-629-6176

岩手には、昭和40年からずっと続いている「教育振興運動」という教育運動があります。略して「教振(きょうしん)」と、よく呼ばれています。県教育委員会では、この「教振」をもっと活発にするために、平成17年度から「みんなで教振! 10か年プロジェクト」に取り組んでいます。この資料は、その主な取り組みについて、県民の皆さんに広く知っていただき、それぞれの立場でこの「教振」に参加していただきたいと考えて作成したものです。

知ってほしい…

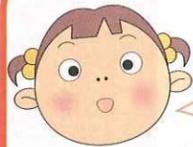
考えてほしい…

参加してほしい…



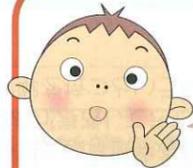
教育振興運動イメージキャラクター
きょうちゃん しんちゃん

岩手県教育委員会



「教育振興運動」は、このような運動です。

- ◇ 教育振興運動は、学校、家庭、住民等が絡み、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む岩手県独自の教育運動です。
- ◇ 昭和40年に、県内各地で地域をあげて学力向上のための取り組み(読書運動など)を行ったのが始まりで、以来、本県の教育水準の向上、子どもの健全育成、家庭や地域の教育力向上など、岩手県の教育環境の整備充実に大きな役割を果たしています。
- ◇ 子ども、親、教師(学校)、地域、行政の5者が、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して進める運動です。
- ◇ 地域が抱える子どもたちの教育課題を地域単位で人々が話し合い、運動の計画を立て、地域の特色を生かして自主的に解決しようとする実践的運動です。
- ◇ 子どもや親の自発的な取り組みに加え、多くの大人が子どもたちにかかわり、地域全体で子どもたちをはぐくもうとするところに特色があります。
- ◇ 皆さんが、日頃、取り組んでいるPTA活動や子ども会活動も教育振興運動の一部です。今後も皆さんが取り組んでいる活動に多くの大人が関わるなど、より一層の協力をお願いします。



「みんなで教振! 10か年プロジェクト」は、このような取り組みです。

これまでの運動の成果と課題を踏まえて、今行っている運動や活動、組織についての再点検を行うことを通して、「子どもは地域全体ではぐくむ」という気運を高め、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの育成を目指すもので、4つのステージから構成されています。

第1ステージ (平成17～19年)

- ①テーマ:「再構築の3年」
- ②キーワード:「見直す」
- ③重点
 - 地域の課題と掘り起こし
 - 教育振興運動の組織の見直し
 - モデルプログラムづくり
 - 学校の先生の研修の充実

第2ステージ (平成20～22年)

- ①テーマ:「実践の3年」
- ②キーワード:「やってみる」
- ③重点
 - 見直した組織や方法による実践
 - モデルプログラムの成果と課題の周知
 - 評価の仕方の工夫

第3ステージ (平成23～24年)

- ①テーマ:「定着と検証の2年」
- ②キーワード:「確かめる」
- ③重点
 - 実践活動の継続
 - 工夫した評価の仕方での確かめ
 - 評価活動の推進

第4ステージ (平成25～26年)

- ①テーマ:「飛躍の2年」
- ②キーワード:「まとめる」
- ③重点
 - 10年間の運動のまとめ
 - 次のステップへの方向性の検討



「第1ステージ:再構築の3年」では、特にこのような取り組みをしてきました。

「みんなで教振! 10か年プロジェクト」の周知

●さまざまなメディアや機会をとらえての周知

- ● 県教育委員会広報紙「はばたけいわてっこ」や県広報テレビ番組「いわて情報ステーション」等でより多くの県民の皆さんに知っていただけるよう周知を図りました。
- 県や県教育委員会が主催する様々な事業、各種会議、市町村事業等において、周知に努めてきました。

課題の掘り起こしと組織の見直し

●「教育振興運動実践区等リーダー研修会」や「教育振興運動市町村担当者研修会」等の実施

- ● 教育振興運動を進めている皆さんを対象に、地域の教育課題の掘り起こし方等についての研修会を開催しました。

モデルプログラムづくり

●教育振興運動モデルプログラムづくり

- ● 皆さんの活動の参考になるよう、検討委員会やワーキンググループにおいて34のモデルプログラムを作りました。(平成17年度)
- 作ったモデルプログラムを県内10か所の市町村等で実際に行っていただき、その成果と課題をまとめました。(平成18～19年度)

●教育振興運動モデルプログラムの周知

- ● 10か所の市町村等において取り組んでいただいたことを通して、練り上げたモデルプログラムを県集約大会や報告書等でお知らせしました。

学校の先生への研修等

●「地域連携窓口教員」の位置づけ

- ● 学校と地域をつなぐ「地域連携窓口教員」の各小、中、高、養護学校等への位置づけを進めてきました。

●「地域連携窓口教員研修会」の実施

- ● 県立生涯学習推進センターや各教育事務所において、地域連携窓口教員の皆さんを対象にした研修会を実施してきました。

●「地域連携推進ハンドブック」の作成

- ● 地域連携窓口教員の先生方の仕事の参考となるよう「地域連携推進ハンドブック」を作成し、各学校に配布しました。



教育振興運動モデルプログラム

「学力向上」にむけた
モデルプログラムに取り組んだ
3市町です。



「健全育成」にむけた
モデルプログラムに
取り組んだ
2市村です。



学力向上モデル プログラム-例1

遠野市教育委員会

○課題

家庭学習の習慣が身に付いていなかったり、家庭学習の仕方がわからなかったりする傾向があります。

○課題解決に向けて

青少年教育施設等において宿泊合宿を行うことにより、家庭学習の仕方を学び、学ぶ意欲を高める体験活動を行います。学校の学習内容とリンクした家庭学習の習慣化を図りました。

○プログラム内容

●「青少年教育施設等における宿泊合宿プログラム」
→ 「ふるさと発見探偵団」事業で社会教育施設での宿泊学習を取り入れ、学校や指導主事の先生、岩手大学学生、子ども活動サポーター等に学習を支援してもらったり、学習の楽しさを実感できるよう理科の実験等の実体験を行ったりしました。

○こんな成果が

→ 学びの場を設定することによって、子どもたちは学習をするようになりました。また、普段接することの少ない異年齢の子ども同士での学習体験でプラスの効果が出てきています。



学力向上モデル プログラム-例2

西和賀町教育委員会

○課題

自主的な読書、話を集中して聞くこと、文章の概要をつかむことを苦手にする傾向があります。

○課題解決に向けて

朝は学校、夕方は家庭や地域で10分読書に取り組む運動を進め、そのために実践区ごとの取り組みを支援し、ボランティアグループの育成を図りました。

○プログラム内容

●「朝夕読書10分運動プログラム」
→ 家庭での読書習慣形成を目標に、小学生は家庭で「音読で完読」の取組み、中学生は一冊の本から「座右の銘」を探り出す取組みをしました。家庭ではそのアドバイス、学校では朝読書や図書紹介、地域では読み聞かせ、行政は企画、連絡調整、周知を行ってきました。

○こんな成果が

→ 地域の方々から小中学生へのお薦め図書が寄せられたり、町内のボランティア同士の交流が図られたりして、地域全体の読書への理解に裾野の広がりを感じるようになりました。



学力向上モデル プログラム-例3

奥州市前沢区教育振興運動連絡協議会

○課題

読書が基礎学力向上や豊かな心をはぐくむことを理解しつつも、家庭での読書は多くない傾向にあります。

○課題解決に向けて

学校での読書活動を中心としながら、読書ボランティアによる読み聞かせ会、地区教育振興会等での啓発活動、ジュニアボランティアの育成を図りました。

○プログラム内容

●「朝夕読書10分運動プログラム」「読み聞かせボランティア」
→ 長期休業を利用し、7小学校に読書カードを配布して「10分間読書」に取り組みました。また、区内のボランティアグループ活動に中学生の参加を呼びかけ、研修会を開催しながら、ジュニア読書ボランティアの育成をしてきました。

○こんな成果が

→ 「10分間読書」に取り組むことで、本を毎日読むようになった子どもが増えてきました。また、読み聞かせを体験した子どもたちは、その楽しさを体感するなど、読書推進につながってきています。



健全育成モデル プログラム-例1

川井村教育振興運動推進委員会

○課題

地域文化にふれる機会が少なく、地域文化を知る人は高齢化し、地域文化を伝承できない傾向にあります。

○課題解決に向けて

地域文化体験活動を総合的な学習の時間に位置づけ、地域やPTA、行政において体験活動を行います。特に親子共同体験を重視しました。

○プログラム内容

●「親子で体験! 地域体験プログラム」
→ 門馬地区では、学校と地域が連携して、そばの種まきから栽培、収穫、調理までの一連の体験活動を行うなど、子どもたちに地域の食文化を伝える取組みを進めてきました。

○こんな成果が

→ 地域に残る食文化の意義を理解することができ、ふるさとを知ることにつながっています。また、事業の企画や運営が、学校と公民館との連携の中で進められています。



健全育成モデル プログラム-例2

八幡平市教育振興運動推進協議会

○課題

子どもが、地域で遊んだり、地域のよさを知る機会が少なくなる傾向があります。

○課題解決に向けて

地域にある自然に触れる体験活動及び地域の伝統芸能を理解するための活動を実施しました。

○プログラム内容

●「地域のよさ体験プログラム」
→ 地域の方に講師をお願いし、地域にある樹木にネームプレートをつける取組みを行ったり、地域に古くから伝わる神楽の由来等についての理解を深める取組みを進めてきました。

○こんな成果が

→ 子どもたちは、地域の自然や歴史等をより身近なものとして感じるようになってきています。また、活動にいたるまでの学校や地域の取組みが細やかになってきています。



平成18～19年度にかけて、教育振興運動モデルプログラム委託事業を進めてきました。これは、平成17年に、教育振興運動モデルプログラム開発検討委員会とワーキンググループで作成したモデルプログラムを、その地域の実態にあった形で実践していただいたものです。そのことを通じて、現場にあったモデルプログラムを創りだし、皆さんのこれからの実践活動の参考にしていただけたら幸いです。ここに、この2年間、取り組んでいた10市町村等のモデルプログラムを紹介いたします。なお、県立生涯学習推進センターのホームページに詳しい取組みを載せていますので、ぜひご覧下さい。(アドレス <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>)

「健全安全」にむけた
モデルプログラムに
取り組んだ
2市村です。



「組織の見直し」にむけた
モデルプログラムに取り組んだ
3市町です。



健全安全モデル プログラム-例1

花巻市大迫町教育振興推進協議会

○課題

テレビ視聴やゲーム時間が多い傾向があり、生活リズムや家庭学習、読書、外遊び等への影響があります。

○課題解決に向けて

テレビ視聴やゲーム等の実態を明らかにし、関係者が望ましいあり方について考え、地域ぐるみで生活リズムの定着改善を図る取組みを推進しました。

○プログラム内容

●「計画的テレビ視聴推進プログラム」

→ アンケート等により子どもたちの生活実態を把握し、現状と課題を踏まえて、改善取組への協議や情報提供を行ってきました。ノーテレビデー、ノーゲームデー、手強いタイムや読書タイム等の奨励や啓発を進めてきました。

○こんな成果が

→ 子どもと親が相談し、テレビ視聴の計画を作成して、毎日の結果を親子で反省し、評価、記録するという実践に取り組み、平均の読書時間は増加し、テレビ等の視聴時間が減少してきています。



健全安全モデル プログラム-例2

軽米町教育委員会

○課題

朝食をとってこない子が見受けられるなど、子どもの食生活や生活リズムが乱れている傾向があります。

○課題解決に向けて

起床・就寝、家族そろっての朝食に着目し、ふれあいを通じた地域ぐるみ、家族ぐるみで生活リズムの改善や定着についての取組みを推進しました。

○プログラム内容

●「早寝・早起き・みんなで朝ご飯推進プログラム」

→ 食育については、ほぼ全実践区において取り組んでおり、植栽、栽培、収穫の一連の活動を地域の協力を得ながら進めてきました。特に、軽米中学校実践区はモデル実践区として取り組んでおり、町集約大会でその成果や課題について周知を図りました。

○こんな成果が

→ 地域との協力で米作りの体験活動を実施したり、栄養に関する講演会を行ったりすることによって、地域全体の食育に対する関心が高まっています。



組織モデル プログラム-例1

大船渡市民運動推進協議会

○課題

市町村合併後も、旧大船渡市と旧三陸町で異なる体制で教育振興運動が展開されてきています。

○課題解決に向けて

教育振興運動の推進体制を一つに統合しながら、各実践区の課題と特性にあった実践活動ができるよう、運動の理念と目的の共通理解から取り組んでいきました。

○プログラム内容

●「大船渡市教育振興運動推進体制再構築プログラム」

→ 市内各実践区で教育振興運動の理念や目的の認識が一樣ではなく、他の活動に埋没してほとんど意識されていないところもありました。そこで、まずは運動の理念と目的、子どもたちの実態について、広報による周知・啓発や研修会の開催等を通して、教育振興運動の浸透を図ってきました。

○こんな成果が

→ 教育振興運動以外の会議でも、教育振興運動についての発言が出てくるなど、理念や目的が浸透してきています。組織の一本化はまだですが、共通理解を持つという新しい一歩となりました。



組織モデル プログラム-例2

平泉町教育振興運動推進委員会

○課題

教育振興運動はPTA活動によるところが大きですが、保護者は教育振興運動の意識が気薄です。

○課題解決に向けて

行政区単位で行っている各団体の教育活動を教育振興の一環として理解を求め、教育振興運動の主力であるPTA活動に地域を巻き込み、多くの地域住民の参画を図りました。

○プログラム内容

●「PTAからPTCAへ」(C=地域)

→ 教育振興運動研修会では、PTA会長、民生児童委員、行政区長、公民館長、老人クラブ、婦人会等が一堂に会し、グループワークを行いました。また、リーダー会議においては教育振興運動について学ぶ機会を設け、実践組織の立ち上げを呼びかけました。

○こんな成果が

→ 教育振興運動についてPTAの枠を越えて、共通理解を図ることができてきました。また、地区の活動案も作成できたので、全戸配布の「教振便り」で紹介し、役立てていただくこととしています。



組織モデル プログラム-例3

久慈市教育振興連絡協議会

○課題

旧久慈市と旧山形村の合併により新市となりましたが、全市的な教育振興運動のための組織はありません。

○課題解決に向けて

各実践区の活動をお互いに理解することにより、教育振興運動の基礎づくりを行い、全市的な教育振興運動組織の立ち上げを目指して取り組みました。

○プログラム内容

●「推進組織と実践組織の課題の共有に向けた組織の見直し」

→ 全戸配布の生涯学習便りを活用して教育振興運動や連携の進め方についての情報提供を行いました。また、活動者研修会では教育振興運動の趣旨から計画に基づく実践の進め方や、学校と地域が課題を共有する場の大切さについて学びました。

○こんな成果が

→ 市として教育振興運動推進計画を作り、17実践区から組織される久慈市教育振興連絡協議会が設立されました。各実践区の情報や意見交流の場が設けられ、次年度の活動につながる契機となっています。

